

令和8年4月6日

歯学・歯科医療における生涯研修のあり方に関わる提言

日本歯学系学会協議会（歯学協）は、学術の発展に寄与するとともに、研究成果を社会へ還元するための事業を行い、国民の健康増進に寄与することを目的として活動しています。令和4年度に文部科学省で、歯学教育のモデルコアカリキュラム改訂が行われました。また厚生労働省で、臨床実習に入るための共用試験の公的化と Student Dentist（共用試験合格後の臨床実習で歯科医業を実施する歯学生）の法的位置づけの明確化、歯科医師国家試験の見直し、歯科医師臨床研修制度の改正が進んでいます。さらにその後の生涯研修は、地域や社会との関わりの中で、研修・研鑽を通じて各々の専門性をより高め、質の高い歯科医療を国民に提供することが求められます。そのためには、歯学協会員である各学会、日本歯科医師会、都道府県歯科医師会および日本歯科医学会が連携し、生涯研修を充実させることが重要です。

歯学協は、会員学会に所属する歯科医師が、医療の専門職として生涯を通じて学び、新たな知識や技能を身につけることで、歯科医療に対するニーズの変化に応え、国民が生涯を通じて安心して歯科医療を受けることのできる歯科医療提供体制を構築することが肝要と考えます。つきましては、歯学・歯科医療における生涯研修のあり方をテーマに以下の提言を行います。

- 専門性の高い歯科医療を提供できる、専門医の育成と専門医研修施設の整備を進めます。

歯学協は、会員学会を通じて、臨床研修からのシームレスな専門医取得を支援するために、専門医育成に必要な専門医研修施設を拡充するとともに、専門医の育成を担う能力のある人材の育成・確保を目指します。

- 多様化するニーズに対応できる、かかりつけ歯科医の育成を進めます。

歯学協は、会員学会を通じて、訪問歯科診療や障害児・者への対応を含めた、乳幼児期から高齢期、周術期における各ライフステージに応じた歯科疾患の予防や口腔の管理等に貢献できる、かかりつけ歯科医の育成を進めます。

- 歯科領域における ICT（Information and Communication Technology）の利活用をはじめとした医療 DX（Digital Transformation）の推進に貢献する歯科医療人の育成を進めます。

歯学協は、会員学会を通じて、最新の科学技術を応用した歯科領域における ICT の利活用および医療 DX の推進に必要な技術開発と、その役割を担う能力のある人材の育成・

確保を目指します。

- 地域包括ケアシステムの構築に向けた多職種と連携した医療の場で、口腔機能管理の専門職として活躍できる人材の育成に取り組みます。

歯学協は、会員学会を通じて、大学、病院、歯科医師会それぞれが関わる多職種連携チーム医療の場において、口腔機能管理の専門職として信頼される人材の育成を目指します。

- 地域共生社会の実現に向けた障害児・者への対応が可能な人材の育成に取り組みます。歯学協は、会員学会を通じて、医療的ケア児を含め障害児・者等が日常生活および社会生活を営むために必要な歯科医療を受けることができるよう、歯科医療提供体制の構築を推進するとともに、その役割を担う能力のある人材の育成・確保を目指します。